レビー小体型認知症に対する当事者および家族への支援プロジェクト

本多容子[1]，　福岡裕行[2]，　阿部宏史[1]，　三宅光代[1]，　中井良育[1]，　信岡研身[3]

[1]藍野大学 看護学科、[2]訪問看護ステーションふるる、[3]藍野病院

報告概要　DLB カフェは 8 月を除いた毎月 1 回開催し、そのうち 3 回はイベント開催とした。イベントは「勉強会/ご本人・ご家族の交流会」と題した講演会と当事者・家族会を実施した。DLB カフェで、当事者・家族同士で悩みを共有したり、情報交換したりする場面が多くみられた。講演会には専門職も多く参加し、専門職への情報提供の場としても有用であると考えられた。またご本人・ご家族の交流会では、専門職がファシリテーターとして介入することで、カフェとは違った雰囲気で情報交換がなされた。今後も当事者およびご家族・専門職が関わっていく活動を継続・拡大していきたい。

１．カフェ開催の経緯

増加する認知症当事者と家族への支援として認知症カフェが全国で開催されている。レビー小体型認知症（以下、DLB）は一般的な認知症と言われるアルツハイマー型認知症とは症状が異なり、認知度が低いことから疎外感を感じると当事者や家族は話す。このような背景から DLB の当事者や家族が情報交換や交流ができる場が必要であると考え DLB に特化した「DLB カフェ」を開催し、実践した結果を報告をする。

２．プロジェクト目的

本プロジェクトは、認知症施策推進大綱が推進をしている地域の専門職とともに DLB に特化して当事者の本人発信支援や家族など介護者の支援を行い、早期発見早期治療および認知症バリアフリーの取り組みを行うことを目的とする。

３．実施方法

2022 年 4 月より継続して、DLB に特化した「DLB カフェ」を毎月第 3 土曜日に実施し、うち 3 回は「勉強会/ご本人・ご家族の交流会」も開催している。参加スタッフは藍野大学の教員ならびに認知症認定看護師や介護福祉士，社会福祉士などの専門職である。

４．結果・今後の展望

1)　DLB カフェ

2023 年度は「DLB カフェ」を 7 回開催した。参加者の一番多い月は 5 月で 16 名の参加であった。継続開催した結果、安定して 10 名ほどの参加に繋がっている。参加者が増え、何度も参加することで「顔馴染み」の関係が構築され、DLB 当事者・家族同士で悩みを共有したり、情報交換したりする場面が多くみられるようになってきた。

また初めて参加した家族からは、「普通の認知症カフェで、（アルツハイマー型認知症などと症状が違うため）話が合わなくて馴染めなかった」、「DLB と診断されたが、どこに相談すればよいのか分からなかったので困っていたので助かりました」など話が聞かれ、DLB カフェ開催の意義が感じられた。

大学所在地である大阪北部地域のみならず、大阪府南部地域など遠方からの参加者も次第に増えている。今後は DLB カフェの内容を見直しするとともに実践地域を拡大していきたいと考えている。

（写真：参加者同士が交流をしている場面）

2)　勉強会・ご本人・ご家族の交流会

勉強会の開催に関して 3 回実施し、レビー小体型認知症の薬、福祉サービスの利用についてなど多彩なテーマで講演が行われた。DLB 当事者・家族の他に専門職が 20～30 名程度参加している。おおむね、参加者からの意見は好評であった。当事者および家族の交流会は、遠方からの参加者も多いため月 1 回開催している DLB カフェとは違う交流の場となっていることが伺えた。今後は参加者のニーズを反映させていきたいと考えている。

謝辞　DLB サポートネットワーク大阪の活動をご支援いただいている皆様に深く感謝をいたします。